



浦和大里小学校だより

10月号 令和6年9月30日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



うまくいったときこそ

校長 中野 緑

一気に秋がやってきました。朝のさわやかな空気を胸いっぱい吸い込むと、体の中まですっきりした青空が広がるようです。明日から10月。1年間の半分が終わり、次の学年を意識しながらの後半戦が始まります。

先日新聞を読んでいましたら、大リーグ、シカゴ・カブスの投手である今永昇太選手の言葉に出会いました。「投げる哲学者」とも呼ばれる今永選手は言います。「勝ったときに反省することが一番の幸せ」。記事によると、勝った時も「どこまでが運で、どこまでが根拠のあることなのか、曇りのない眼で考える時間」をとるのだそうです。

大人になるまで反省は負けた時、失敗した時にするものだと思っていました。子どもの頃、テストの点数が悪いと「どこが理解できていないのか見直さない」、スイミングで記録が伸び悩むと「真面目に練習してきたの?」、友達とけんかすると「あなたの悪かったことはなんですか?」と問われる経験からそう思い込んでいました。自分の行いを振り返って、直すべきことは直そうと努力することはとても大切なことです。毎日、毎日、うまくいかない自分と向き合って、反省、反省、また反省…。けれども、そんな毎日を思い出すとなんだか苦しくなってくるのも事実です。

そこで、反省と同じくらい大切にしたいのは、成功のなぜを問うことです。「この難しい問題は正解しているけどどうやって勉強したの?」「どんな練習がこの記録につながったの?」「最近仲良く過ごせているみたいだね。何か気を付けていることがあるのかな?」1年生でも聞き続けると答えてくれるようになります。「漢字を覚えるのって大変だよね。すごいねえ。どうやって覚えたの?」「ううんとね、いっぱい書いた。」「いっぱい書いたんだ。何個くらい書いたのかな?」「ううんとね、いっぱい。」「そうか、そうか。覚えたぞ、っていう瞬間が分かるの?」「うん、見ないですらっと書ける。」「そうなんだ、ドリルとか見ないですらっと書けたら覚えたってことなんだ。そうやって練習するんだね。すごいなあ!」にこにこ、嬉しそうです。

「成功のなぜを問い、失敗の次を聞く。」「すごいねえ。どうしてうまくいったの?」と問い、良かった行いを繰り返し言語化させるのです。嬉しいことこそ何度も味わい、何度も喜び、後半戦も明るく元気に進みましょう。

※参照記事は、9月24日付 朝日新聞 折々のことば 鷲田清一による